坂口 智康さん（平25経済）

専大初 騎手デビュー

騎手デビューし、トーセンアウローラ号で疾走する坂口さん＝3月3日、小倉競馬場（東京スポーツ新聞社提供）

専大から初のジョッキー誕生――。坂口智康さん（平25経済）が今年3月、障害専門騎手としてデビューした。2月、2024年度JRA新規騎手免許試験に合格。競馬学校創立（1982年）後、騎手経験がなく調教助手から騎手に合格するのは初めて。

坂口さんは学生時代、馬術部で活躍。全日本学生賞典馬場馬術大会で準優勝、関東学生賞典馬場馬術大会で優勝した。卒業後は北海道の牧場勤務を経てJRA競馬学校厩務員課程に入学。この春まで美浦トレーニング・センター（茨城県）尾形和幸厩舎で調教助手を務めた。

中学時代から騎手を夢見ていたが、視力が受験資格を満たさず断念した。

専大初のジョッキーになった坂口さん＝2月、JRA馬事公苑

ところが要件が緩和されたことを数年前に知り、騎手への挑戦を決めた。今回2回目の試験で見事合格を果たした。33歳と、騎手としては遅咲きだが、大学馬術、牧場勤務、トレセン勤務で培った経験を武器にする。

障害競走は、水ごう、生垣、竹柵などコースに設置された障害物を飛越しながらゴールを目指す。坂口さんは3月3日、小倉競馬場でデビュー。12頭中8着で「自分自身がイメージしていた騎乗と現実にかなりギャップがあり、他の騎手に迷惑を掛けてしまった。馬と馬との距離感やペース配分等、今後修正していく必要がある課題が残る内容だった」と振り返る。

5月12日までに18レースに騎乗し、2着1回、3着2回。「1レースごとに課題が生じ、毎回その課題を意識し現状できる範囲で修正しつつ騎乗しています」と話す。ルーキーながら競馬の世界では長いキャリアを積んでいるがゆえに1勝の難しさ、1レースの重みを知る坂口さん。「障害競走のファンを増やしたい」と、レースに挑んでいる。

「障害競走のファン増やしたい」

『専修大学史紀要』第16号発刊

『専修大学史紀要』第16号が発刊された。本学大学史資料室編。

今号は、日高義博総長の「社会の中にあって社会に立つことの意義―専修人の責務とは―」、「道徳・倫理の実相と教育―新渡戸稲造『武士道』を紐解く―」の2本の講演録を掲載。

このほか、国際コミュニケーション学部の斎藤達哉教授による元剣道部監督・吉原晋氏に関する聞き取り調査報告や、昭和30年代の元漕艇部の卒業生の日記なども収録されている。

なお、口絵には新収資料紹介として、1964年の東京五輪でカヌー競技に出場した小林英男氏（昭40経済）の旧蔵資料も紹介されている。

『大学史紀要』は希望者に配布する。送料390円分の切手を同封の上、氏名、送付先を明記し、〒101-8425東京都千代田区神田神保町3-8専修大学大学史資料室に郵送。郵送された切手を使用して送付する。

問大学史資料室TEL03・3265・5879

就職だより

〈全年次生へ〉「芝浦工業×専修×東京女子大学合同企業人事担当者による模擬面接会」を5月25日（土）に対面で実施します。企業の人事担当者が面接官を担当し、他大学生と一緒に、本番さながらの雰囲気で模擬グループ面接を受けることができます。学年問わず参加することができますので、これから採用面接を受ける方もインターンシップ・仕事体験の選考面接を受ける予定の方もお気軽に参加してください。開催場所は芝浦工業大学豊洲キャンパス（江東区豊洲）、詳細は「S-net」で確認してください。

「自治体による地域の魅力説明会～地域研究から紐解く就職活動・インターンシップ」を5月23日（木）にオンラインで実施します。「就職支援協定」を締結した自治体を中心に、各自治体担当者が地場産業や働き方などの地域の魅力を説明します。地域の特徴・魅力を知ることによって、「場所」のイメージを具体的に整理してみましょう。詳細は「S-net」で確認してください。

育友会からのお知らせ

育友会では、ご父母・保護者を対象とした「神田キャンパス見学会」と「就職懇談会」（学生の参加も可）を開催します。詳細及びお申し込みは本学ホームページからお願いします。定員になり次第締め切ります。

申し込み　5月22日(水)～6月14日(金)

◆ **神田キャンパス見学会**

【日 時】6月29日(土)
午前の部 10:20~11:20（予定）
※集合場所 10号館3階10031教室
午後の部 13:40~14:40（予定）
※集合場所 10号館1階ロビー

申し込み

◆ **就職懇談会**

【日 時】6月29日(土) 13:00~16:30（予定）
【場 所】神田キャンパス3号館3階303教室

申し込み

異文化コミュニケーション学科学際シンポ

植民地支配の影響探る

国際コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科主催の学際シンポジウム「過去から考える現在　植民地支配とグローバル化の諸相」が3月20日、神田キャンパスで開かれた。植民地をキーワードに、歴史・文学・哲学など学外の5人の研究者が講演。研究者や大学院生など約50人が出席し、植民地支配が現代に何をもたらしたのかを探った＝写真。

鵜飼哲氏（一橋大名誉教授／フランス文学・思想）らが、幅広い地域について考察を展開。パネルディスカッションでは、「環太平洋という視点が重要ではないか」など、活発な議論が交わされた。

伊藤特任教授が日本語の起源論考

土屋研究室講演会

国際コミュニケーション学部の土屋昌明研究室が3月「大陸倭語と日本語の起源について」をテーマとした講演会を神田キャンパスで開講した。本学でコリア語や言語文化研究を担当する同学部の伊藤英人特任教授（2024年度は客員教授）が、日本語の起源に関する論考を、分かりやすく発表した＝写真。

この講演会は、2023年度科学研究費助成事業の基盤研究（B）に採択された土屋教授の「道教の聖地としての洞天への巡礼と東アジアにおけるその思想文化に関する調査研究」（23～25年度）の一環。

伊藤特任教授は、朝鮮半島の中央部や南部で話されていた日琉語族の一つ「大陸倭語」について解説し、その話者である濊人（わいじん）が稲作とともに日本に渡来、拡散したことが現在の日本語の起源になったのではないかと論じた。

パレスチナ問題 児玉講師が考察

ジャーナリズム学科・JCLU講演会

講演する児玉講師

文学部ジャーナリズム学科と公益社団法人自由人権協会（JCLU）共催の講演会「難民からみたパレスチナ問題　故郷喪失と強制移動をめぐる記憶から」が3月18日、神田キャンパスで行われた。

講演者は本学卒業生で、現在は同学科兼任講師の児玉恵美さん（平26文）。児玉講師はパレスチナ・イスラエルの地域研究、難民研究などを専門とし、精力的に現地調査も行っている。

講演では、歴史的背景からパレスチナ問題を探った。

山田健太教授からの「日本のメディアの姿勢をどうみるか」との問いかけに、児玉講師は「掘り下げが足りない。どんな意味があり、その後どうなったかを報じることが大切だ」と答えた。

校友会情報

24年度春の叙勲・褒章

◇黄綬褒章
山下恭一氏（昭44経済・神奈川県）業務精励（自動車運送業）

校友会定時総会 2024

日時＝7月6日(土)12時30分～（受付開始12時予定）
場所＝京王プラザホテル新宿（東京都新宿区）
会費＝10000円（当日受付にて）
参加申し込み締め切り＝6月6日(木)
問・校友会事務局TEL03・3265・7579

校友会代議員会
▽6月23日（日）11時30分～▽神田キャンパス3号館303教室

〈札幌支部総会〉
▽6月1日（土）18時～▽札幌パークホテル（札幌市）

〈北九州支部総会〉
▽6月6日(木)18時30分～▽JR九州ステーションホテル小倉（北九州市）

〈社労士黒門会総会〉
▽6月9日（日）12時～▽神田キャンパス7号館731教室

〈相模原支部総会（報告会）〉
▽6月29日（土）18時～▽餃子房CHINA DOLL（相模原市）

専修大学・石巻専修大学「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」推進募金

本学が進めている事業のうち、下記の7項目を募金目的の柱としています。また、それぞれの募金目的について、具体的に使途を明示しております。これにより皆様が、本学の活動のうち、より強化・充実させたいと思われるものを具体的に指定し、支援することができる仕組みとなっております。皆様のご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

募金の詳細につきましては、ホームページ等をご覧ください。

募金目的

- A 国際交流の推進支援
  - 01 海外留学支援募金
  - 02 外国人留学生支援募金
  - 03 日本・ラオスプロジェクト事業募金
- B 学生スポーツ活動の振興
  - 04 学生スポーツ活動支援募金
  - 046 箱根駅伝出場応援募金
- C 学生への経済的支援
  - 05 経済支援奨学生募金
  - 06 学術奨励奨学生等支援募金
  - 07 古本募金
- D キャリアデザインプログラム充実支援
  - 08 キャリアデザインプログラム充実支援募金
- E 学生のボランティア活動支援
  - 09 学生ボランティア活動支援募金
- G 教員の研究活動支援
  - 12 奨学寄付
- H その他
  - 13 その他使途を特定しない支援

※ F10「多目的ホール・シート募金」及びF11「チェア募金」は2021年度で募集を終了しました。

専修大学募金局　TEL：03・3265・3157　E-mail：bokin@acc.senshu-u.ac.jp